

円のベクトル方程式

1. [センター追試]

平面上の四角形 OABC において、 $|\vec{OA}|=2$, $|\vec{OB}|=3$, $|\vec{OC}|=1$,
 $\angle AOB = \angle BOC = 60^\circ$ であるとする。点 P が

$$\vec{PA} \cdot \vec{PB} = \frac{5}{4} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

を満たしながら動くとき、三角形 OCP の面積の最小値を求めよう。

以下、 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OP} = \vec{p}$ とおく。

まず、点 P の動く範囲を考えよう。①は、 $(\vec{a} - \vec{p}) \cdot (\vec{b} - \vec{p}) = \frac{5}{4}$ であるから、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \boxed{\text{ア}} \text{ に注意すると } |\vec{p}|^2 - (\vec{a} + \vec{b}) \cdot \vec{p} + \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウ}}} = 0 \text{ と書き換えられる。}$$

$$\text{これはさらに } \left| \vec{p} - \frac{\vec{a} + \vec{b}}{\boxed{\text{エ}}} \right| = \sqrt{\boxed{\text{オ}}} \text{ と書き換えられる。点 M を } \vec{OM} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{\boxed{\text{エ}}}$$

となるように定めると、点 P は、M を中心とする半径 $\sqrt{\boxed{\text{オ}}}$ の円周上を動く。

次に、点 P と直線 OC の距離について考えよう。直線 OC 上の点 H を $\vec{OC} \perp \vec{MH}$ となるようにとる。実数 t を用いて $\vec{OH} = t\vec{OC}$ と表すと、 $\vec{OC} \cdot \vec{MH} = \boxed{\text{カ}}$ であることから、

$$t = \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}} \text{ となる。このとき、} |\vec{MH}| = \frac{\boxed{\text{ケ}} \sqrt{\boxed{\text{コ}}}}{\boxed{\text{サ}}} \text{ であるから、点 P が } \textcircled{1} \text{ を}$$

満たしながら動くとき、点 P と直線 OC の距離の最小値は $\frac{\sqrt{\boxed{\text{シ}}}}{\boxed{\text{ス}}}$ となる。

したがって、三角形 OCP の面積の最小値は $\frac{\sqrt{\boxed{\text{セ}}}}{\boxed{\text{ソ}}}$ である。

2. [岡山大]

平面上の異なる 3 点 O, A, B は同一直線上にないものとする。
 この平面上の点 P が

$$2|\vec{OP}|^2 - \vec{OA} \cdot \vec{OP} + 2\vec{OB} \cdot \vec{OP} - \vec{OA} \cdot \vec{OB} = 0$$

を満たすとき、次の問いに答えよ。

- (1) P の軌跡が円となることを示せ。
- (2) (1) の円の中心を C とするとき、 \vec{OC} を \vec{OA} と \vec{OB} で表せ。
- (3) O との距離が最小となる (1) の円周上の点を P_0 とする。A, B が条件

$$|\vec{OA}|^2 + 5\vec{OA} \cdot \vec{OB} + 4|\vec{OB}|^2 = 0$$

を満たすとき、 $\vec{OP}_0 = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ となる s, t の値を求めよ。